雪の音

ゆき　おと

平成26年6月15日発行　Vol.121

一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　北陸支部

CONTENTS 目次 2014 June Vol.121

巻　頭　言…安全・安心な県土づくりに向けて
新潟県 土木部長　高　橋　　猛 …… 1

特　　集…一級河川梯川　平成25年７月29日出水
～埴田水位観測所において、観測史上最大の水位を記録～
北陸地方整備局　金沢河川国道事務所 …… 2

随　　想…私と「水」
尾　畑　納　子 …… 7

寄　稿　文…～2014年生誕200周年～
日本のミケランジェロ　石　川　雲　蝶
奥只見郷ネイチャーガイド　大　野　好　二 …… 9

ちょっと気になるコーナー…世界遺産登録　富岡製糸場
中越交通株式会社　取締役営業部長　山　崎　康　裕 …… 13

お 知 ら せ…平成26年度（第32回）　北陸支部定時総会
広報部会 …… 15

独占禁止法遵守に関する講習会
独占禁止法の遵守に関する特別部会 …… 17

平成26年度 業務・研究発表会
～継続的な技術研鑽のために～
技術部会　品質向上委員会 …… 18

平成26年度「防災講演会」　ご案内
釜石の奇跡に学ぶ「想定外の災害にどう備えるか」
広報部会 …… 19

支部活動報告
事務局 …… 20

会 員 名 簿
各部会・委員会委員名簿
事務局 …… 32

編 集 後 記
猪　俣　孝　之

題　　字　元北陸地方建設局長
　　廣瀬　利雄　揮毫
表紙写真　におい香る花菖蒲
撮 影 地　新潟県新発田市五十公野
撮 影 者　猪俣　孝之

巻　頭　言

安全・安心な県土づくりに向けて

新潟県 土木部長
高　橋　　猛

本年４月に土木部長へ就任してから約二か月が経ちますが、この平成26年度は、昭和39年に発生した新潟地震から50年、平成16年の新潟豪雨災害や中越大震災から10年という、本県で発生した大災害からの節目の年にあたります。

東日本大震災を契機として、また、昨年12月に成立した「国土強靭化基本法」により、防災・減災への意識が高まっている中、本県の災害の歴史や、これまで経験してきた復興に関わる取組を振り返り、今後に活かしていくための防災イベント等が県内各地で計画されています。

本年２月に関東地方を襲った歴史的大豪雪に際しては、雪国新潟の除雪技術を活かし、関係団体等の協力のもと、広域的な応援体制を構築し、山梨県、埼玉県等において迅速な除雪作業を実施することができました。

今後も災害や雪に強い安全･安心な県土づくりを進めていくとともに､これまでの災害から培った教訓を全国に引き続き発信していくことが、本県の果たすべき役割であると考えています。

また近年、高度経済成長期に急速に増えたインフラの老朽化対策が全国共通の課題となっており、国土交通省では昨年を「社会資本メンテナンス元年」として、インフラの老朽化対策等についての総合的な取組を始めたところです。

本県においてもインフラの老朽化対策は喫緊の課題であることから、必要な点検･調査を行い、予防保全によるトータルコストの縮減を図りながら、戦略的な維持管理・更新の取組を積極的に推進していきたいと考えています。

最後に、国の経済対策等を受けて、全国的に公共事業関係費は微増の傾向にあるものの、依然として社会資本整備を取り巻く環境は厳しいものがあります。私共が、災害対応やインフラ整備等を通して、地域の安全・安心の担い手としての役割をしっかりと果たしていくためには、常に「高い志」と「勇気」をもって、行政のみならず建設コンサルタントをはじめとする建設業界等が一体となることで、はじめて実現することができるものと考えています。

とりわけ工学的技術をもって社会資本整備に貢献されている建設コンサルタントの業務は、今後更に多様化していくと考えられますが、夢と希望、信頼感と誇りを持ち、「未来を担う建設コンサルタント」として、新たなインフラの価値創造の一翼を担っていただくことを期待申し上げます。

今後とも、貴協会の会員の皆様方のお力添えをいただきながら、私共職員一同も最善を尽くしてまいりますので、御支援と御協力をお願いするとともに、貴協会の益々の御発展を心から祈念いたします。

特集

一級河川梯川　平成25年７月29日出水
～埴田水位観測所において、観測史上最大の水位を記録～

北陸地方整備局　金沢河川国道事務所

１．はじめに

平成25年は、７月中旬から８月上旬にかけての梅雨前線により中国地方から北陸地方の広い範囲において豪雨が発生したのを皮切りに、９月中旬の台風18号による近畿地方の被害、10月中旬の台風26号による伊豆大島の被害など全国的にも水害の話題が途切れることのない年となった。

図1. 梯川位置図

石川県下においても非常に雨の多い年であったといえ、金沢地点の年間降水量は平年値（約2,500㎜）を大きく上回る3,318㎜となり、この3,000㎜の大台突破は実に昭和60年以来、28年ぶりのこととなっている（図２）。

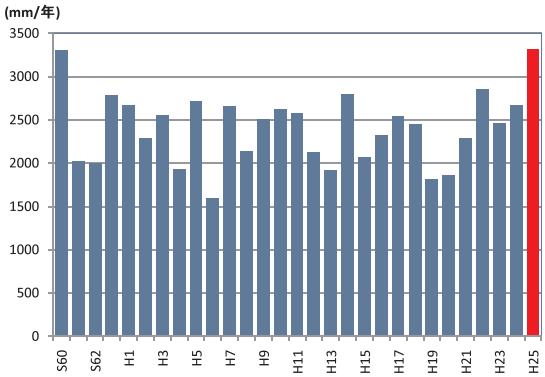


図2. 金沢地点　年間降水量

この影響により、小松市街地を流れる梯川では７月29日から30日にかけての出水において観測史上最大の水位を記録し（写真１）、小松市及び能美市の4,624世帯、13,564人に避難指示が発令された。

一方、これまで河川整備として進めてきた引堤事業により、大幅な水位の低減効果が発揮され、これにより川から水が溢れ出すことを未然に防止したほか、前川排水機場の稼働により、支川の被害発生を防いでいる。さらに、地域の災害対応を支援するため配備している緊急排水ポンプ車を浸水が発生した箇所に出動させ、被害拡大の防止あるいは早期復旧に向けた活動を実施している。

本報告では、これら梯川の出水に関する状況と金沢河川国道事務所が行った対応、そしてこれまでの河川整備における効果について紹介する。

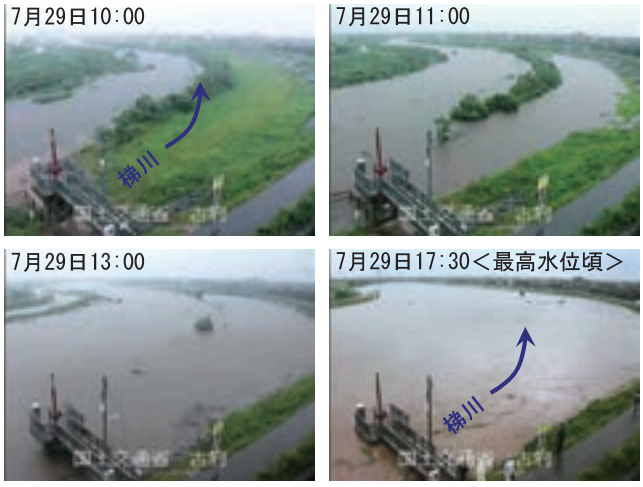


写真1. 梯川 CCTV カメラ映像（河口から約８km上流付近）

２．気象の状況

７月29日から30日にかけて、梅雨前線が朝鮮半島から日本海をとおって北陸地方に達し、この梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が非常に不安定となったため、29日朝から夜遅くにかけて加賀地方を中心に雷を伴う大雨がもたらされた。

金沢地方気象台のアメダスによれば29日の日降水量は、小松で199.5㎜、白山吉野で235.5㎜、白山白峰

で204.5㎜が観測されているが、これは各観測地点における値としてこれまでの最大記録を更新する雨量である（図３､表１）。

また、金沢河川国道事務所で観測している尾小屋においても、観測開始以来最大となる228㎜の日雨量が記録されている。

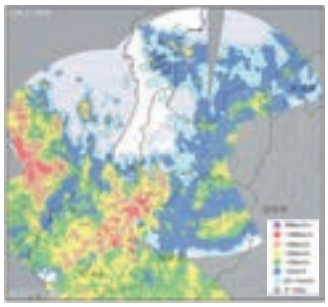


図3.XRAIN（7/29 AM11時）

表１. 各観測地点の日降水量

地点名	今回（H25.7.29）	これまでの最大	統計開始
小松(気)	199.5	161（H8.6.25）	S53
白山吉野(気)	235.5	181（H8.6.25）	S51
白山白峰(気)	204.5	196（H8.6.25）	S52
尾小屋(国)	228.0	185（S54.8.21）	S49

３．出水の状況

これら梯川流域として最大級の降雨がもたらされたことにより、29日未明より水位が上昇し始め、10時50分に水防団待機水位（2.0m）を突破した後さらに水勢は勢いを増し、11時から12時にかけての１時間あたり水位上昇量1.58m（2.23m →3.81m）は、本出水期間における最も急激な変動量となっている。

また、その後も水位は上昇し続け、17時20分に計画高水位5.24m にあと１㎝まで迫る5.23m のピーク水位に到達し、これまでの最高記録であった平成10年９月22日出水（5.07m）を上回る、観測史上最大の水位となった（図４）。

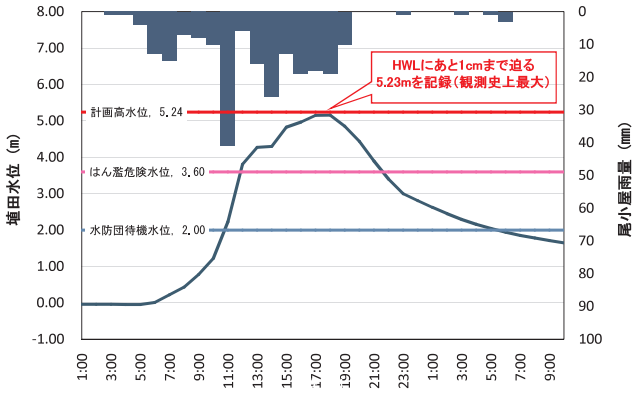


図4. 梯川　埴田観測所の水位状況（7/29～30）

なお、埴田地点における断面図（図５）のとおり、水位は右岸側の堤防高にあと93㎝まで迫るなど梯川として過去の経験にない領域の出水となったが、堤防の決壊あるいは越流による氾濫被害は発生していない。

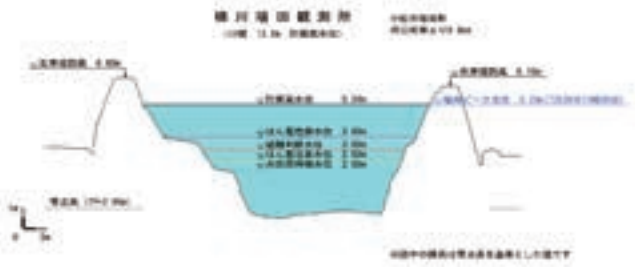


図5. 埴田観測所地点の断面図

４．過去の出水との比較

図６は、埴田観測所（昭和47年１月より観測開始）において、過去に水防団待機水位（2.0m）を上回った全120出水の流量規模と発生時期を整理したものである。

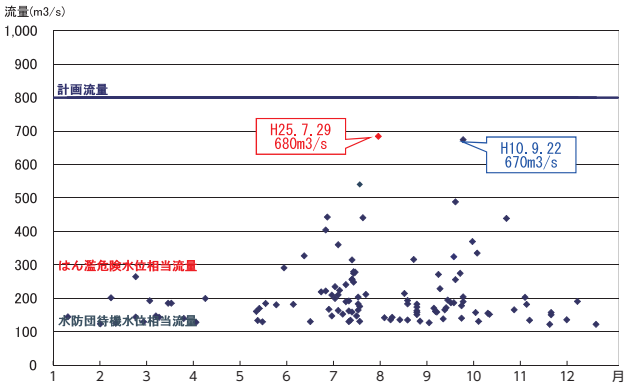


図6. 埴田観測所　水防団待機水位相当流量
超過全120出水　発生分布図

なお、これまでの最高記録であった平成10年９月22日出水について、その起因は台風によるものであるのに対し、今回（平成25年７月29日）出水は、梅雨前線により観測史上最大の規模となったものである。つまり、今回出水によって、あらためて「出水に対する防災意識は、降雨をもたらすあらゆる気象がその対象となる。」ことを証左する実績が加わったものとも言える。

また、表２は、埴田観測所及び小松大橋観測所における過去出水のそれぞれ上位10傑を整理したものであるが、これによれば観測史上最大の水位となった今回出水と、平成10年９月22日出水では、水位と流量の関係について両観測所で一過性が無い結果となっている。これは後述するが、河川整備として、引堤事業が河口から白江大橋（６k 付近）まで完了したことより、その区間内では大幅な水位低減効果が発揮されていることを、小松大橋観測所の記録が示唆しているものである。

表2. 各水位観測所の暦年最高水位表

梯川埴田水位観測所　暦年最高水位表

順位	年月日時分		水位(m)	流量(㎥/s)	備　考
1	H25.7.29	17：20	5.23	680	暫定値
2	H10.9.22	20：00	5.07	670	
3	H18.7.17	20：00	4.91	540	
4	H16.10.20	22：40	4.69	440	
5	H18.7.19	1：00	4.39	440	
6	H10.9.17	5：20	4.38	480	
7	S59.6.26	19：50	4.11	440	
8	H8.6.25	17：40	3.75	400	
9	S56.7.3	3：00	3.63	360	
10	S58.9.28	16：00	3.56	370	

S47. 1～今回出水までの高水位順

小松大橋水位観測所　暦年最高水位表（正時）

順位	年月日時分		水位(m)	流量(㎥/s)	備　考
1	H10.9.22	21：00	4.08	710	
2	H18.7.17	9：00	3.81	640	
3	H25.7.29	18：00	3.76	760	暫定値
4	H16.10.20	24：00	3.70	590	
5	H18.7.19	2：00	3.56	570	
6	H8.6.25	19：00	3.47	440	
7	H10.9.17	7：00	3.28	500	
8	H16.9.30	9：00	2.85	390	
	H9.7.12	13：00	2.85	350	
9	H14.7.13	23：00	2.68	330	
10	H5.7.13	13：00	2.66	330	

H3. 4～今回出水までの高水位順

5．被害の状況

1）沿川の内水被害

今回出水において、堤防の決壊あるいは越流による氾濫被害は発生していないものの、本川の水位が高い状態が継続したことにより、支川や用水路等では本川への流入が困難となり、総面積177haの内水被害が発生している（図7）。なお、石川県のとりまとめによれば床上浸水1棟、床下浸水28棟、非住家浸水77棟となっている。

これらに対し小松市からの要請を受け、住居や生活道への影響が懸念される5箇所について、国土交通省が配備する緊急排水ポンプ車や照明車等を出動させ、夜間を含めて排水作業を実施するなど地域防災の支援活動を行っている（表3）。

2）避難勧告・指示の状況

氾濫危険水位（3.6m）を超えたため、29日13時20分頃に小松市、18時30分に能美市のそれぞれで避難勧告が発令されたが、その後の水位上昇に伴って梯川における出水としては、初の避難指示への切り替えが行われた。なお、最終的な避難指示の対象は、両市合わせて4,624世帯、13,564人に及んだが、幸いにも人的な被害は回避されている（表4、図8）。

6．これまでの河川整備における効果

1）引堤事業による水位低減

梯川では、河口から上流に向けて順に川幅を広げる引堤事業等を鋭意進めてきており、平成24年度には小松新橋から白江大橋（河口から約5k～6kの約1km区間）の引堤が完了している（図9）。

なお、国による直轄事業として昭和46年から河川整備を進めているものであるが、その直轄化以前の状態（昭和46年当時）のまま、今回の出水を受けたと想

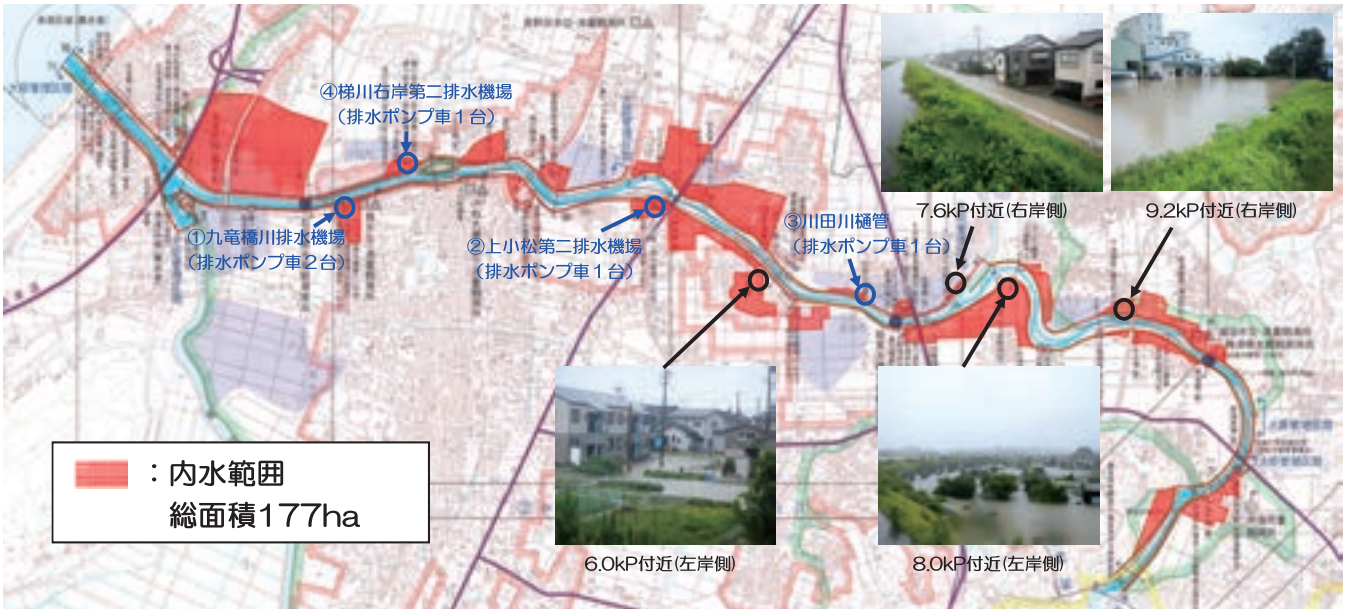


図7. 梯川における被害状況（沿川の内水被害）

表3. 梯川における沿川の内水被害への対応

出勤場所	機械種別・台数	排水時間	開始時間・終了時間	概算排出量	作業人員（のべ人数）
①小松市　九竜橋川排水機場 （河口より2.2k、左岸）	排水ポンプ車　2台 照明車　2台 Ku-SAT　1台	15時間45分	7/29　14：45 7/30　6：30	56,700㎥	12人
②小松市　上小松第二排水機場 （河口より4.7k、左岸）	排水ポンプ車　1台 照明車　1台 Ku-SAT　1台	10時間10分	7/29　18：50 7/30　5：00	18,300㎥	5人
③小松市　川田川樋管 （河口より6.6k、右岸）	排水ポンプ車　1台 照明車　1台	10時間45分	7/29　19：35 7/30　6：20	19,350㎥	7人
④小松市　梯川右岸第二排水機場 （河口より2.8k、右岸）	排水ポンプ車　1台 照明車　2台	10時間40分	7/29　23：50 7/30　10：30	19,200㎥	5人
⑤小松市　木場潟 （今江町地先、木場潟公園付近）	排水ポンプ車　2台 照明車　1台	11時間10分	7/31　8：50 7/31　20：00	40,200㎥	12人
合　計	25mプール　512杯分			153,750㎥	41人

表4. 避難勧告・避難指示の状況

発令地区	避難勧告	避難指示	世帯数	避難人数	避難指示・避難勧告解除
小松市千代町	29日 13時22分	29日 17時05分	21町 4,484世帯 13,110人	1,811人	29日 20時56分
小松市能美町					
小松市一針町					
小松市川辺町					
小松市平面町					
小松市古府町	29日 14時46分				
小松市小野町					
小松市白江町	29日 15時10分				
小松市金屋町					
小松市漆町					
小松市佐々木町					
小松市光陽町					
小松市軽海町					
小松市中海町					
小松市荒木田町					
小松市埴田町					
あけぼの町	29日 15時50分				
小松市荒屋町					
小松市高堂町					
小松市長田町					
小松市野田町					
小松市扇町	29日 17時00分		5町 1,494世帯 4,281人		
小松市北浅井町					
小松市南浅井町					
小松市大領町					
小松市岩渕町	29日 18時20分				29日 22時30分
能美市小杉町		29日 18時30分	140世帯 454人	145人	30日 5時40分
能美市大長野町（一部）	29日 18時30分		92世帯 326人		
能美市寺島町				24人	

定した場合には、水位はさらに最大で約1.1m 高くなっていた可能性があり（図10）、堤防の決壊の発生などより深刻な事態になっていたものと推定される。特に、昨年度に整備が完了した小松新橋から白江大橋区間にかけては、以前の川幅を80m から120m へと1.5倍に広げた引堤事業により、70㎝の水位低下を図り、川から

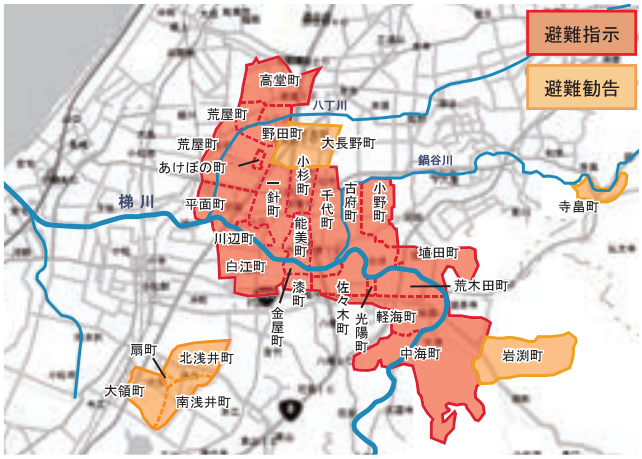


図8. 避難勧告・避難指示が出された地区

水が溢れ出すことを未然に防止している（図11）。

仮に、このような引堤事業が行われず、堤防の決壊や氾濫が発生していたと想定する場合には、約21,600名に及ぶ人命被害、約7,400戸の家屋浸水等など、小松市街地を中心に甚大な被害が発生していた可能性がある（図12）。

2）前川排水機場の果たした役割

前川排水機場は、梯川水系前川及び木場潟の内水を排除するため、平成８年４月から暫定運用（30㎥/s）、平成12年４月から本格運用（62㎥/s）しているものであり、今回の出水では、約２日間にわたる運転を継続し、総排水量約680万㎥の排水を行っている（図13）。

なお、今回のこの総排水量を例えると、「木場潟」の水を５杯分入れ替えたことに相当するものであり、仮に、前川排水機場が無かった場合には、木場潟周辺一帯で約780ha の浸水が発生していたものと推定される。これは、今回出水において、実際に梯川の沿川で発生した内水被害の総面積177ha を遙かにしのぐものであり、前川排水機場は梯川水系における治水施設の要として重責を担っていることを示している（図14）。

図9. 梯川引堤事業の状況

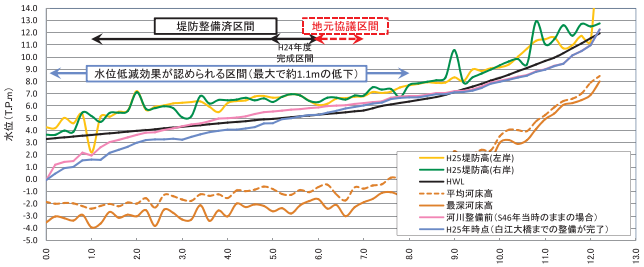


図10. 梯川の引堤事業による水位低減効果

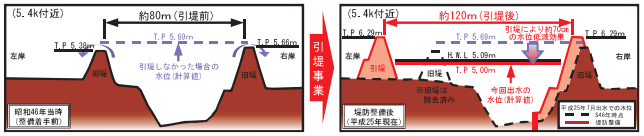


図11.7/29出水における引堤事業の効果

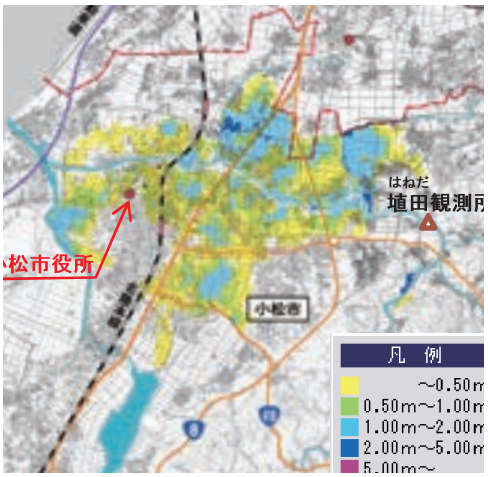
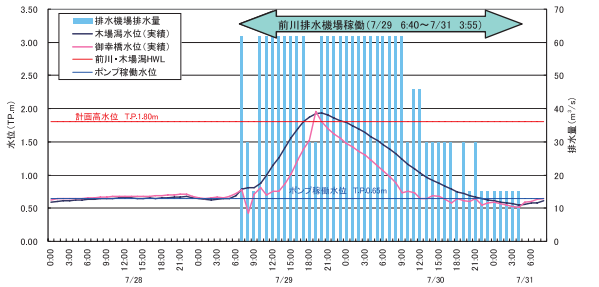


図12. 未改修のまま今回出水が流れていた場合の浸水想定範囲



	運転時間		総排水量	備考
前川排水機場	7/29　6:41～　7/31　3:55	42時間14分	6,800×10³m³	※運転日報による

図13. 前川排水機場の稼働状況

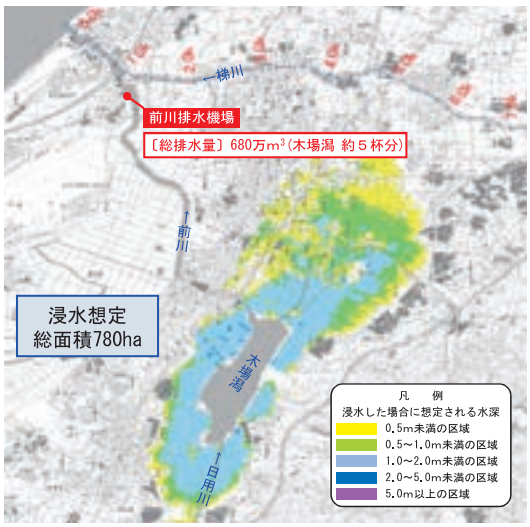


図14. 前川排水機場が無かった場合に想定される浸水被害

7．おわりに

今回の出水において、これまでの梯川の河川整備における効果が発揮された一方、「災害には上限がなく再び繰り返される。」との教訓のもと、今後も引き続き着実な河川整備を進めることが不可欠であるものと認識している。

また、河川整備のハード面だけでなく、緊急排水ポンプ車の出動など地域防災を実現するためのソフト対策の充実も、ますます重要な取り組みになるものと理解している。

あらためて金沢河川国道事務所としては、今回の出水における経験を風化させることなく、防災体制の改善に努め、直轄事業として地域に求められる期待に十分応えられるよう、更に組織力を強化していきたいと考えている。

私と「水」

尾 畑 納 子

●はじめに

ずいぶん昔の話になる。学生時代、生まれ育った富山を離れ、初めて関西で飲んだ水のまずさに驚いたことは今も記憶に残っている。当時は川の表面が洗剤の泡で覆われ魚が大量死したことや琵琶湖や瀬戸内海での赤潮発生など、水質の汚濁が大きな問題になっていた。1960年代、日本の暮らしが急速に豊かになる一方、そのプロセスで市民生活がもたらした、思いがけぬ影の部分であった。

このような社会問題の中で、特に私が関心を持ったのは洗剤の環境負荷であった。当時は合成界面活性剤による河川の汚染など、水質の問題ばかりでなく人体への影響など安全・安心に関わる様々な課題が表面化していた。なんとなくではあったが、今自分たちの周りで何が起こっているのか、こうした問題を深く知りたいと思い、洗剤と環境を研究テーマに選んだ。これが将来、私の生涯の仕事につながるとは思ってもいなかったのだが…。

●洗濯・洗剤はなぜ必要か

私たちの生活は多くの化学品をくらしの中に取り込むことで便利になってきた。食生活が豊かになると、その分身体から出る汚れも複雑な物質が出てくる。その汚れは水やお湯では落ちないので、汚れを落とすための薬剤が必要となる。こうして石けんが登場する。

汚れが残っていると見栄えが悪いばかりでなく、衣服の耐久性をも低下させ、さらには雑菌の温床となり健康に影響を及ぼす。それはまた宗教的な禊ぎの意味とも相まって、古今東西を問わず洗濯習慣が生まれた。

洗濯は家事の中でも重労働であった。ところが第1次世界大戦頃ドイツが石油から合成洗剤を開発、その後洗濯機の普及に伴い合成洗剤の使用量は石けんを上回るようになる。そして合成界面活性剤を含む排水が河川に一時に大量に流れ込むことで、本来水がもつ自浄力を超えてしまったのである。

1960年頃都内住宅地の河川の様子

現在、洗剤の泡問題や安全性については国の下水道事業が進み、洗剤自体も成分に配慮した商品開発が行われる中で、水質汚濁問題は概ね終息したように思われる。では、本当に大丈夫なのだろうか。『生活が豊かになれば、人はきれい好きになる』ということわざがあるが、入浴や洗濯の頻度は増え、水の使用量も増大している。人が快適で便利な生活を追及することで、環境への負荷がかかることを理解し、水質汚染・節水など複合的な観点から注意深く観察する必要があるのではないだろうか。

●富山の名水～おいしい水のルーツをたどる

故郷の富山で教職に就き、これまでは洗浄を通して汚い水について考えてきた私であるが、新たな仕事として富山の恵まれた水資源について学生たちに講義をするようになった。学生たちと地元の名水を訪ね、水

の成分分析をしていくうちに、富山の豊富でおいしい水はその素晴らしい自然環境によって育まれたものであると実感するようになった。急峻な立山連邦と緑豊かな森、豊富な水量を誇る河川が流れ込む海、そして町のいたるところで人々を潤す豊富な湧水。それがどれほど尊いものであるか、海外を訪れ、現地の水事情を聞くにつけ、思い知らされる。だからこそこの水環境を守り続けていかねばならない。若い世代への環境教育と行動する大切さを伝えなければならない。そんなことを思う今日この頃である。

立山カルデラ内の湧水『天蓋の水』

●災害と水から学ぶこと

人は水がなくては生きてゆけない。水は命を育む。しかし一方で、災害を引き起こし命を奪う。人は自然の前には無力だが、災害に備えることは可能だ。そして、地球温暖化が進む今、環境を守ることも大切だ。

環境教育の一環として、OISCA 富山と共催で実施したタイでの植林ボランティアに学生と参加している。現地のボランティアと協力し、エビの養殖のため森林を伐採してしまった地域にマングローブを、また焼畑で土地がむき出しになり土砂災害が起きやすくなってしまった地域にチークの木を植林した。

南タイ　ラノーン県にてマングローブの植林

北タイ　メコン川に土が流れ込んで水が赤く見える

若い世代が言葉も通じない中、互いに泥だらけになりながら協力し合っている姿がほほえましく印象的だった。また、防災ボランティア国体の立山砂防女性サロンの会の会員と 2013 年に出かけたベトナムでは、度重なる水害から町を守るために堤防壁が築かれていた。その壁面は防災用であるにもかかわらず、市民がデザインした絵画を陶器で作って南国らしい明るい雰囲気を生み出していた。

ベトナム　ハノイのホン川から町を守る防壁

●おわりに

水の汚れに痛みを覚えて始まった水との関わり。そこから、洗濯という人の営み、名水、環境への取組み、防災と、その関心は国内外へ広がっている。私を支えてくださっている方々に感謝しつつ、水への私のこだわりは当分続きそうだ。「水」はおもしろい。

プロフィール

尾畑納子

1953年富山県生まれ
金沢大学大学院博士課程修了　富山国際大学現代社会学部教授
専門：生活環境学（洗浄科学，水環境学）
博士（学術）立山砂防女性サロンの会会長
㈶砂防・地すべり技術センター理事

寄稿文

～　2014年生誕200周年　～

日本のミケランジェロ　石　川　雲　蝶

奥只見郷ネイチャーガイド　大野　好二

◯はじめに

6月の緑風に町のあちこちから黒地の幟がはためく音が聞こえて来る。生地には小文字で横に「2014年生誕200周年」縦長に「日本のミケランジェロ石川雲蝶」と白字で大きく染め抜かれている。

この幟は今年が石川雲蝶の生誕200周年記念を宣伝。江戸末期から明治にかけて彫刻師としてこの越後で雲蝶は活躍している。その作品はまさに西洋のイタリア・ルネサンス期、15～16世紀にかけて活躍したミケランジェロに例えられている。

雲蝶は30歳代に越後に入り死ぬまで多くの作品を各地の社寺に残している。その数は約千点余という。

雲蝶に関しての記録や資料はほとんど残されていないので、詳細なことは不明である。しかし雲蝶は作品に制作年月、刻銘、落款等を入れていたからそれらを整理して制作の足取りが解明されて来ている。

本稿では魚沼市内の作品を中心に、ガイドの経験と先人の文献や各資料を紐解きながら雲蝶について少し紹介したい。

◯雲蝶の生い立ちと越後への経緯

雲蝶は文化11年（1814年）、江戸・雑司ヶ谷（東京都豊島区）で生まれている。父親は仏壇の飾り職人であり、全町内が仏壇づくりや仏具関係の家が多かったという。

雲蝶は本名を正照、俗名安兵衛と言った。仏具職人の血筋、仏檀職人町という環境に恵まれ雲蝶は仏壇職人としての腕を若い時から磨いて行ったと想像できる。

江戸彫石川流の技術を20歳半ばで習得し、やがて幕府お抱え彫師となった。そして苗字帯刀が許され、職名を「石川安兵衛源雲蝶」と名乗った。

雲蝶の名前の由来には「雲」のように、「蝶」のように風に吹かれるままに自由に職人としての修業を積みたいとの願いがあったという。

雲蝶が御用勤をしていた頃の幕府は財政難で天保の改革を推進していた。綱紀粛正、倹約奨励令が実行され、庶民に祭りや文化、生活面での規制が厳しく彫刻師の仕事も激減の時代に遭遇していた。

丁度この頃、雲蝶は一人の越後人と運命的な出会いをする。

その人物は三条・金物商人で本成寺の檀家総代をしていた内山又蔵である。内山は本成寺の再建に絡み、欄間を彫る彫師を探しており、江戸で商談の家で目を見張る雲蝶の彫刻を発見。雲蝶に会って三条での仕事を懇請する…。その後、雲蝶は越後に足を運ぶ。

石川雲蝶 顕彰像

○赤城山西福寺開山堂

西福寺開山堂

開山堂とはそのお寺を開山した初代御開山様をおまつりするお堂のこと。西福寺には初代の芳室祖春様と曹洞宗開祖の道元禅師様がおまつりされている。

このお堂は第 22 代蟠谷大龍和尚様が先代和尚様の遺志を継いで安政 4 年（1857 年）に建立した。

建築様式は鎌倉時代の禅宗仏殿構造で屋根は茅葺二重構造、上層部屋根は入母屋造りの総ケヤキ、下層部は五間四方の唐風向拝になっている。向拝には雲蝶の彫刻作品「鳳凰」「烏天狗」等が飾られている。

○開山堂内の彫刻作品

三間四方の堂内の天井と周囲の欄間や壁には雲蝶の透かし彫りの彫刻や漆喰を使った漆喰絵、また明かり窓には細木細工の書院風の装飾等がある。

特筆すべきは、堂内彫刻はお釈迦様の教えや道元禅師様の物語が中心になっている極彩色彫刻である。

道元禅師猛虎調伏の図

極彩色に彩られた天井彫刻は、大龍和尚様が雲蝶に道元禅師様が中国で修行した時の逸話である。

雲蝶は和尚様の意図を汲んで彫刻や絵画に表現していることが素晴らしい天才的技能である。

雲蝶が西福寺の仕事を始めたのは 39 歳で、大龍和尚様は 33 歳の若さであったという。この西福寺の仕事は大龍和尚様が雲蝶の技量を見込んでの依頼であって雲蝶自身も生涯唯一の大仕事であった。

お客様を開山堂にご案内すると、どなたも異口同音に天井彫刻の作品に圧倒されて感嘆の声を発する。

次に、どうしてこんな農村の小さなお寺にこんな華麗な彫刻があるのかと疑問を投げかけられる。

大龍和尚様の熱い仏道心である「雪深いこの農村の人々の心の拠り所となる夢を与えたい」「お釈迦様と道元禅師様の教えこそ人々の心を幸せに導く」を説明。

○ケヤキの一本彫りの仁王像

開山堂の階段両脇に二体の仁王像がある。「阿形」と「吽形」像で悪者の鬼を退治してお堂を守っている。

仁王像

この二体の仁王像はもともと山門の両脇に安置されていたが、風雨から守るために堂内に移されたという。

高さが約２ｍの一本彫、ケヤキ材の木目が全身を通り素材の持ち味が生かされ、全身に波打っていて迫力がある。目には当時は珍しいギヤマンがはめ込まれている。

◯石彫りの火防地蔵

赤城山西福寺の山門前に火防（ひぶせ）地蔵がある。近隣の火災予防に一役かっている。

ミケランジェロは材質に大理石を使った彫刻作品が多いが、雲蝶には石材彫刻作品が少ない。

火防地蔵

西福寺の山門前には石の彫刻が二点ある。

雲蝶の彫刻には当時貴重なギヤマンが両眼にはめられあたかも生きているように表現。この火防地蔵も両眼のうち左眼が台風で大木が倒れてきて外れたという。今は修復されている。

本稿では写真掲載はないが山門前の火防地蔵の反対側に雲蝶作「禁葷酒」の石柱がある。その石柱の台座が石で彫られた見事な寝牛である。

これら石材を使った雲蝶彫刻の素晴らしさは、イタリアのミケランジェロが大理石で彫った「ダヴィデ」「ピエタ」にも匹敵する。雲蝶が「日本のミケランジェロ」と称される所以でもある。

◯襖絵「孔雀遊戯の図」は人生を諭す絵

西福寺本堂と中室の間境の襖両面に二主題の絵が片側四面を使って大きく描かれている。

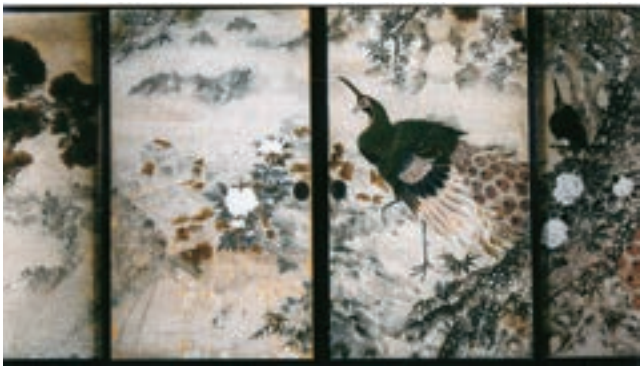
「孔雀遊戯の図」と「三顧の礼」である。そのうちの「孔雀遊戯の図」は一羽の孔雀が大きく羽を広げた様が岩絵の具で彩色され美しく描かれている。孔雀の周りに富貴の象徴である牡丹の花が爛漫と咲き乱れている。この絵の主題は左から二枚目の「石橋（しゃっきょう）」にあるという。

人はみな不老長寿を求めてこの橋を渡り、孔雀が遊び牡丹が咲く園へ行こうとする。それはこの石橋を境に向こう側に不老長寿の園があるからという。

この石橋を渡れるのは善人のみで、未だにこの橋を渡った人はいないという。

この襖絵は、人は長い人生を善人であり続けることが容易でないことを諭している。

この襖絵の主題は今の時代にも十分に通じる生き方を示しており、絵の依頼者の大龍和尚様や雲蝶は古今の歴史や人物、故事来歴等に精通していた。



孔雀遊戯の図

魚沼市には雲蝶の彫刻作品群がもう一か所ある。針倉山永林寺と称し西福寺と同じ曹洞宗である。

雲蝶が寺に住み込み 13 年間かけて彫刻、絵画等を 100 点以上残しているのは圧巻である。

雲蝶が永林寺の仕事を請けた経緯にはこんなエピソードが語り伝えられている。

永林寺の弁成和尚様がお寺再建のために三条へ関係の大工棟梁、檀家総代等と一緒に大工道具、金物類を買い求めに行ったとき雲蝶に再会。酒を飲み、博打の賭け事で雲蝶が負けお寺の仕事をすることに…と。

◯楽器を奏でる「天女」

永林寺本堂内は雲蝶の彫刻や絵画で埋め尽くされている。欄間には極彩色､透かし彫りの「雲水龍」や「天女」､浅彫りの手法で「茶道具」「朝顔」「ぶどう」等。

雲蝶は絵画でも才能を発揮し、欄間に「金鶏」「松に雀に山雀」を岩絵の具で極彩色に描いている。

楽器を奏でる天女

ここ永林寺位牌堂欄間には、透かし彫りで彩色された「天女」が優美にして華麗な姿が見せている。

天空に火炎太鼓、笙の笛を演奏している様は音楽が聞こえてくるようである。

「弁天様」とも言われる天女は弁舌、才知に優れ、歌を詠み、音楽を司るという。また、仏法を広め、寿命を延ばし、利益を施すとも言われる仏様である。

この「天女」は、当時雲蝶が理想とする魚沼の女性がモデルとか…。

ふくよかで気品のある容姿は、当時の美人の条件を秘めているという。「目細」・「鼻高」・「桜色」は美人の要素であるがこの天女像からもそれらが伺える。

○仙人のモデルとなった子守婆さん

西福寺開山堂の雲蝶作品には、物語性の濃いものが多い。これに対して、永林寺の彫刻品で物語性がある作品は唯一この「小夜之中山蛇身鳥物語」である。

小夜之中山蛇身鳥物語

物語の概要は殺生を戒める仏教説話の一つである。

狩りを趣味として鳥獣の殺生を繰り返す父親を妻や息子､娘たちが戒める物語である。作品は彫刻が二枚、天井絵画（板絵）一枚で構成されている。

父親の殺生を戒めようと息子は山中で熊の皮を着て父親に射殺される｡これ以後父親は殺生を止め仏門へ。

ところが母親がたたりで妖怪に変えられる。頭が大蛇、体が大鳥の怪物で蛇身鳥と呼ばれ、娘が母親を救う手だてを仙人にお願いする場面のポーズに苦労する。

雲蝶がこのポーズの構想を何日も子守婆さんを観察して決めたという…。

○おわりに

これまで魚沼市に残る雲蝶の作品及び雲蝶と関係のある人を紹介。雲蝶が江戸で会った金物商内山又蔵、西福寺の大龍和尚様、そして永林寺の弁成和尚様はそれぞれ人生のキーマンであった。

この三人と雲蝶との関係を考えてみると、「人を見る目の大切さ」「人の能力を発揮させる人間関係の重要性」が改めて浮き彫りになる。

このことは現代社会にも通じる歴史的教訓であり正に過去に学び新しき術を知る「温故知新」である。

最後に忘れてならないのは雲蝶の制作活動を裏から支えて来た雲蝶の奥様と家族の人たちである。雲蝶は明治 16 年 5 月（1883 年）人生 70 年の生涯を三条の自宅で終え、静かに本成寺の墓地に眠っている。

（合掌）

(参考文献資料等)
・磯部定治；「魚沼の先覚者」
・木原　尚；「越後の名匠　石川雲蝶」
・中島すい子；「私の恋した雲蝶さま」
・魚沼市観光協会、魚沼市商工観光課観光振興室；
「日本のミケランジェロ　石川雲蝶」パンフレット
・新潟日報記事；26年４月１日～７日（４回連載）
木原　尚；「生誕200年彫師石川雲蝶」
・西福寺・永林寺発行資料、同各寺ホームページ

世界遺産登録　富岡製糸場

中越交通株式会社　取締役営業部長　山崎　康裕

日本で18番目の世界遺産として「富岡製糸場と絹産業遺産群　日本産業革命の原点」が登録される予定です。文化遺産としては14番目。近代産業遺産としては日本初の登録となります。

[富岡製糸場と絹産業遺産群]

明治５年（1872年）群馬県中南部の富岡に建設されました。富岡製糸場は、日本初の大規模工場として誕生し、絹産業を発展指せる為に養蚕、製糸、織物など一連の産業にも力を入れ、国内有数の絹産業地帯へと発展してまいりました。

この先進的な技術は、全国各地で取り入れられて絹産業の発展に寄与してきました。

その結果、1920年代には世界一の生糸輸出国となりました。戦後には、オートメーション化に成功し、その技術は世界へ輸出され発展してまいりましたが、生糸価格の低迷などの影響で昭和62年（1987年）３月に生産を中止致しました。日本の絹産業の115年の歴史を見ることが出来ます。

今回の世界遺産登録では、「富岡製糸場と絹産業遺産群」となっております。富岡製糸工場と近代養蚕飼育法を確立した養蚕農家群、繭（まゆ）を貯蔵した風穴などを合わせた遺産群が登録となります。

[見学]

行かれた事のある方はご存知でしょうが「道が狭く」「一方通行が多い場所」「駐車場が遠い」など今後の観光客の増加を考えた場合、改善の余地があると思います。個人での見学の場合のお勧めは、「解説ガイドツアー（無料）40分間」です。30分間隔で出発します。専門のガイドが建築物の説明や115年の歴史を説明してくれます。

操糸場

東繭（ひがしまゆ）倉庫

西繭倉庫

＊富岡製糸場ホームページより

明治政府がつくった官営工場の中で、ほぼ完全な形で残っているのは富岡製糸場だけです。

［群馬県の温泉・観光地］

「草津温泉」「伊香保温泉」「水上温泉」「四万温泉」など一度は聞いた事のある温泉は、全て群馬県にあります。群馬県は、温泉天国です。富岡製糸場は高速道路を利用すれば、金沢市から約330km、富山市から約270km、新潟市から250km と意外に近い場所にあります。沼田のロックハート城、富岡の群馬サファリパーク、草津の鬼押出し園など観光地も多くあります。地元特産太くて短い「下仁田ねぎ」や「こんにゃく」などを利用した食事。水沢うどん、峠の釜飯、太田焼きそばなども一度お試し下さい。

峠の釜飯

伊香保温泉の石段

下仁田ねぎ

草津温泉湯畑

水沢うどん

事務局からの

お知らせ

平成26年度（第32回）北陸支部定時総会

広報部会

去る平成26年４月24日㈭ホテルイタリア軒において、平成26年度第32回北陸支部定時総会が開催されました。

総会は、出席会員の確認、総会成立宣言に続き寺本支部長の挨拶がありました。

寺本支部長の挨拶

その後議長より、議事録署名人が委嘱され議事に入りましいた。

議事録署名人

㈱千代田コンサルタント

新潟営業所長　　青木　浩　様

パシフィックコンサルタント㈱

新潟支社長　　吉橋　章　様

議事進行状況

議事の審議は以下のとおりで、原案どおり承認されました。

第１号議案　平成25年度事業報告（案）

第２号議案　平成25年度収入支出決算報告（案）
監査報告

第３号議案　平成26年度事業計画（案）

第４号議案　平成26年度収入支出予算（案）

新入会員の紹介

㈱パスコ新潟支店様の入会が報告されました。

会場の様子

総会後、講演会を開催いたしました。講演の内容は以下のとおりです。

講師　国土交通省道路局　高速道路課長
中　神　陽　一　氏

演題　「高速道路を巡る最近の諸情勢」

～略歴～

昭和57年３月 東京大学工学部土木工学科卒

昭和57年４月 建設省入省

昭和63年６月 北陸地方建設局新潟国道事務所
調査課長

平成４年５月 北陸地方建設局企画部企画課長

平成５年７月　道路局企画課道路経済調査室
　　課長補佐
平成８年11月　東北地方整備局秋田工事事務
　　所長
平成11年４月　道路局企画課建設専門官
平成14年７月　新潟県土木部都市局長
平成16年４月　道路局有料道路課有料道路調整官
平成18年７月　都市・地域整備局街路課特定
　　都市交通施設整備室長
平成20年７月　中部地方整備局道路部長
平成22年９月　独立行政法人日本高速道路保有・債務
　　返済機構企画部長
平成24年９月　道路局高速道路課長

講演内容は以下のとおりです。

１．道路関係予算について
・公共事業関係の推移
・平成26年度一般会計予算の構成
・公債発行残高の推移
・平成26年度道路関係予算総括表
・直轄道路関係事業費の推移
・地方道路関係事業費の推移
・高速道路会社６社の道路関係事業費の推移

２．高速道路ネットワーク整備の状況
・諸外国における高速道路整備のスピード
・高速道路の整備状況の国際比較
・主要都市の１時間アクセス圏

３．道路インフラの老朽化に実態
・笹子トンネル天井板撤去工事の状況
・道路構造物の現状（橋梁）
・道路構造物の現状（トンネル）
・日本の橋梁の現状
・地方公共団体管理の落橋事例

４．実態を踏まえた制度改正
・道路法の改正について
・高速道路の老朽化の状況
・首都高速においての大規模更新が必要な区間の例
・高速道路各社の更新計画（概要）
・高速道路の更新投資に伴う料金徴収継続
・道路法等の一部を改正する法律案
・高速道路の更新について

講演する中神講師

道路関係予算の現状を踏まえ、高速道路のネットワーク整備の状況及び今後の整備の方向性についてわかりやすく解説していただきまいた。また、道路インフラの実態や、全国の老朽インフラの現状や重大な落橋事例についても紹介があり、あらためてインフラ等維持管理の重要性について再認識しました。

講演会の様子

今後は老朽化や大規模災害の発生も想定し予防保全の観点も踏まえた道路・構造物等の点検が可能となるよう、実態に即した法改正を逐次実施していると紹介がありました。

また、欧米各国と我が国のITC技術の現状を紹介いただくとともに、高速道路の料金体系や財源等についても最新のトピック等を交えわかりやすくご講演いただきました。

独占禁止法遵守に関する講習会

独占禁止法の遵守に関する特別部会

平成25年度の北陸支部「独占禁止法遵守に関する講習会」が平成26年３月６日に新潟市中央区新光町興和ビルで開催されました。

今年度は、大森法律事務所　弁護士　大森文彦氏と建設コンサルタンツ協会　独禁法に関する委員会実行委員会委員　西潟常夫氏の二名による２時間の講習会となりました。

１.「委託者・受託者・再委託の法的問題について」

講師　大森　文彦　氏

建設コンサルタンツ協会の顧問弁護士である大森氏は、東京大学工学部建築学科の卒業ですが、弁護士にもなられ、現在は東洋大学法学部教授、一級建築士として活躍されています。

今回は､以下のテーマと箇条書きにした項目について、過去の判例やケーススタディを交えて、種々の法律的問題を回避する考え方や対応について説明されました。

テーマ⑴　公法ルールと私法ルールについて

テーマ⑵　独占禁止法について

・規制対象者、禁止されている行為
・私的独占とは何か
・不当な取引制限と取引方法とは
・違反時の制裁について

テーマ⑶　民法について

・仕事上のリスクを予防するための民法について
・民法の適用場面について
・民法と独占禁止法との関係

テーマ⑷　契約というルールについて

・契約とは何にか
・契約に制限はあるのか
・契約するとどんな効力があるのか
・契約に違反するとどうなるのか
・損害賠償責任は、いつまで続くのか
・損害賠償を支払わないとどうなるのか

テーマ⑸　委託者と受託者の契約関係と受託者と再委託者の契約関係について

・契約での取り決め優先（契約自由の原則）
・契約で取り決めていない事項について当事者の言い分が異なる場合、裁判所は何を基準に判断するのか
・契約内容が曖昧ゆえ、当事者の解釈が異なる場合、裁判所は何を基準に判断するのか
・一括再委託はできるのか

テーマ⑹　不法行為というルールについて

・誰との関係で生じる責任か
・過失とは何か
・再委託先が不法行為をした場合、受託者も責任を負うのか

テーマ⑺　設計業務の法的ポイント

・設計業務の基本構造の理解
・受託者の要求の正確な把握と合理的な設計条件の設置
・土木設計の基本的安全性への配慮

テーマ⑻　施工管理業務のポイント

・施工管理業務の具体的内容の取り決めの重要性（範囲、程度、頻度、方法など）
・具体的な確認方法について

２.「各社のコンプライアンスプログラム策定状況の報告及び講習の趣旨と社内の実践について」

建設コンサルタンツ協会独禁法に関する委員会実行委員会の西潟委員より以下の報告と説明がありました。

① 北陸支部会員のコンプライアンスプログラムの策定状況について
② 建設コンサルタンツ協会本部の独占禁止法に関する委員会の活動と広報について
③ 建設コンサルタントにおける独占禁止法遵守のための行動計画と本部、支部および会員の具体的行動内容について
④ 独占禁止遵守マニュアル（第５版）の内容について
⑤ 下請代金支払遅延等防止法（下請法）理解度チェック票の活用について

今回の講習では、会員各社で独占禁止法、民法及び下請法などの法令遵守の意識の徹底と継続した実践行動が必要であることなどが説明されました。

平成26年度 業務・研究発表会
～継続的な技術研鑽のために～

技術部会　品質向上委員会

1. はじめに

建設コンサルタンツ協会北陸支部業務・研究発表会は昨年、建設コンサルタンツ協会50周年記念事業の一環として開催されました。

今年度においても建設コンサルタンツ協会北陸支部会員の業務における優れた成果や研究開発成果の発表を通じて、お互いの技術の研鑽を図ることを目的として開催するものであります。

2. 発表会の概要

発表会の概要は次の通りです。

1. 行事名：建設コンサルタンツ協会北陸支部業務・研究発表会

2. 主　催：(一社) 建設コンサルタンツ協会北陸支部

3. 後　援：国土交通省北陸地方整備局、富山県

4. 日　時：平成26年８月８日㈮
13：00～17：40

5. 場　所：富山国際会場大手フォーラム
２Ｆ多目的会議室201,202号室
富山市大手町１番２号

6. プログラム：主な内容は以下の通りです。

・基調講演：富山県立大学 工学部 環境工学科
伊藤　始　准教授

・業務・研究発表：８名（17分 / 人）

・学生講演：富山県立大学・金沢大学から各１名
（15分 / 人）

・表彰

※当発表会の審査で最優秀賞となる支部長賞を受賞された方は本部が開催する「業務・研究発表会（会場・東京)」において発表していただくこととなります。

7. 参加費：無料

8. 募集人員：100名

9. 申し込み方法：
参加申し込み用紙に所定の事項を記入の上、(一社) 建設コンサルタンツ協会北陸支部宛、FAX にて申し込みください。

10. 申し込み期限：平成26年７月22日㈫
申し込み人数が定員に達した場合は、締め切らせて頂く場合がありますのでお早めに申し込みください。

11. その他：
当業務・研究発表会は建設コンサルタンツ協会の CPD プログラムに認定される予定です。

写真 -1 昨年の発表会の様子

写真 -2 昨年の発表会の様子（学生発表）

平成26年度「防災講演会」 ご案内
釜石の奇跡に学ぶ「想定外の災害にどう備えるか」

広報部会

東日本大震災で岩手県釜石市の小中学生に防災教育を教え、ほぼ全員の2,921人の生徒たちが巨大津波を生き延びた「釜石の奇跡」で脚光を浴び、今もなお後援依頼が殺到している群馬大学教授の片田 敏孝氏を昨年に続きお迎えし、下記のとおり講演会を開催します。

日　　時：平成26年10月19日㈰13時～
場　　所：ＡＮＡクラウンプラザホテル金沢
演　　題　釜石の奇跡に学ぶ
「想定外の災害にどう備えるか」
講　　師：片田敏孝氏
（群馬大学理工学研究院教授）

昨年の「防災講演会」の一部を紹介します。

建設コンサルタンツ協会北陸支部では、昨年12月15日㈰に新潟で開催し、一般参加者380名を含む540名の参加を頂き、次の内容についてご講演を頂きました。

その中でも、片田先生は「NHK クローズアップ現代」にも紹介された「津波てんでんこ（各自てんでばらばらに高台に逃げろという意味）」教育の一部映像を流しました。

片田先生から小学生の子どもたちに「津波のときには、自分一人でも逃げることを家に帰ってお父さん、お母さんに相談してください」という宿題が出され、家に帰った女の子が家族と相談する。

その会話から「遊んでいたら一番高いところに、自分で逃げるよ・・・」「心配になるけど、探しに行かなくていいの・・・」「探してはダメ・・・逃げて・・・あとで合う・・・」しばらくして、その光景を想像したのか「思わず泣き出してしまう女の子、涙するお母さん」といった映像が紹介され、参加者の涙を誘った。

また、片田先生は、未来への防災教育について「10年で市民をつくるプロジェクト、もう10年で文化の礎をつくるプロジェクト、これができるのは教育、それも学校教育だけではない。お父さん、お母さん、おじいいちゃん、おばあちゃんが見せている背中も含めて子どもを育む環境としての教育。これを10年やることの意味を考えていただきたい」と強調され、参加者に期待を込め、講演が締めくくられました。

子や孫のために「おどし」知識だけの防災教育だけでなく、生まれ育った「ふる里」をキライにならない防災教育にするために、多数のご参加をお待ちしております。

北陸支部活動報告

平成25年４月９日

北陸支部会計監査受検

場　所／北陸支部会議室

実施者／監査役　新保　仁、山本　宏司

立会者／運営委員長　高田　一博

平成25年４月９日

平成25年度第１回役員会

場　所／興和ビル会議室

議　題／平成24年度監査報告

第31回北陸支部通常総会議案について　他

平成25年４月24日

金沢工業大学説明会

場　所／金沢工業大学（３年生）

内　容／建設コンサルタントの概要について　他

平成25年４月25日

平成25年度　北陸支部通常総会

場　所／新潟市内

総　会／第１号議案　平成24年度事業報告（案）

第２号議案　平成24年度決算（案）

監査報告

第３号議案　平成25年度事業計画（案）

第４号議案　平成25年度予算（案）

第５号議案　細則の制定（案）

第６号議案　役員選任

講演会／演題　「これからのインフラと建設ビジネス」

講　師／芝浦工業大学 MOT 客員教授

谷口　博昭　氏（元　国土交通省事務次官）

平成25年５月１日

技術部会橋梁委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成25年度事業計画について

平成25年５月８日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／１名

内　容／道路概論⑴道路構造令の解説と運用について

道路概論⑵道路設計の概要について

平成25年５月９日

業務・研究発表 WG

場　所／北陸支部会議室

議　題／業務・研究発表会の開催について

平成25年５月10日

技術部会河川及び砂防委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成25年度事業計画について

平成25年５月10日

技術部会道路委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成25年度事業計画について

平成25年５月15日

建設技術報告会第１回実行委員会

場　所／北陸技術事務所

議　題／建設技術報告会の開催について

平成25年５月16日

技術部会委員長会議

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成25年度事業計画について

平成25年５月23日

技術部会都市計画委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成25年度事業計画について

技術部会委員長会議報告

平成25年５月24日

本部と国総研・土研との意見交換会

場　所／東京都内

出席者／渡辺橋梁委員長

平成25年５月28日

広報部会会議

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成25年度事業計画について

平成25年５月29日

北陸橋梁保全会議幹事会

場　所／新潟国道事務所

出席者／松浦事務局長

平成25年５月30日

本部と橋建協との意見交換会

場　所／東京都内

出席者／近藤橋梁委員

平成25年６月４日

技術部会品質向上委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成25年度事業計画について
技術部会委員長会議報告

平成25年６月４日

総括部会会議

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成25年度事業計画について

平成25年６月５日

業務・研究発表 WG

場　所／北陸支部会議室

議　題／業務・研究発表会の開催について

平成25年６月７日

第41回プレストレストコンクリート技術講習会（後援）

場　所／新潟市内

講　演／「プレストレス技術による建築物の防災・減災・強靭化」
「PC 工学会の国際化の取組み」
「道路橋のメンテナンス～臨床から戦略～」
「鉄道橋の維持管理」
「PC 鋼材の展望」

参加者／130名

平成25年６月12日

広報部会会誌編集委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／雪の音118号の内容確認
会員名簿の確認
雪の音119号の発刊計画

平成25年６月13日

技術部会建設環境委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成25年度事業計画について
技術部会委員長会議報告

平成25年６月14日

平成25年度災害復旧事業技術講習会（共催）

場　所／新潟市内

内　容／「災害査定業務の支援ツール Photog-CAD について」
「Photog-CAD システムの取扱い操作について」
「災害採択の基本原則」
「改良復旧事業について」
「災害査定における留意事項」
「災害復旧工法」
「被災状況と採択事例」

参加者／185名

平成25年６月23日

石川事務所社会貢献活動
白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬一斉防除

場　所／白山国立公園

内　容／外来植物除去作業

参加者／137名　協会会員37名

平成25年６月24日

出前講演（大形小学校）

場　所／新潟市立大形小学校

内　容／環境等について
①パックテストを使用した実験について
②環境全般について

参加者／５年生　150名

平成25年６月27日

平成25年度第２回役員会

場　所／新潟市内

議　題／協会本部運営委員会報告　他

平成25年７月３日

業務・研究発表 WG

場　所／北陸支部会議室

議　題／業務・研究発表会の開催について

平成25年７月４日

けんせつフェア北陸 in 金沢幹事会

場　所／新潟国道事務所

出席者／松浦事務局長

平成25年７月５日

第８回設計業務品質確保研究会

場　所／北陸地方整備局

出席者／横山技術部会長、真嶋品質向上委員長、
渡辺橋梁委員長、涌井河川及び砂防委員長

平成25年７月10日

出前講演（富山生活学校）

場　所／富山市内

内　容／講演　「サクラマスは河川環境のかがみ」

講　師／富山県職員　田子康彦氏

参加者／38名

平成25年７月10日

平成25年度　道路橋示方書改訂に伴う技術講習会(協賛)

場　所／石川県金沢市内

内　容／講演「最近の技術管理業務の概要」
技術講習「道路橋示方書改訂に伴う既製コンクリート杭の施工に関連する変更点」について
技術講習「コピタ型プレボーリング杭工法」について
技術講習「コピタ型プレボーリング杭工法積算基準（案)」について

参加者／89名

平成25年７月11日

北陸地方建設副産物対策連絡協議会

場　所／北陸地方整備局

出席者／佐藤建設環境委員長

平成25年７月12日

出前講演（立山女性サロンの会）

場　所／富山市内

内　容／中尊寺通り整備における住民共働型景観デザイン

参加者／20名

平成25年７月16日

本部と北陸地方整備局等との意見交換会

場　所／新潟市内

出席者／北陸地方整備局　野田局長他11名
新潟県　佐野技監他１名
富山県　江幡建設技術企画課主幹
石川県　寺西技術管理室課長補佐
新潟市　井村技監他２名
本部　大島会長他14名、
北陸支部　寺本支部長他21名

平成25年７月16日

北陸雪氷技術研究会第１回運営委員会

場　所／新潟国道事務所

出席者／佐藤都市計画委員

平成25年７月17日

新潟県土木部との意見交換会

場　所／新潟市内

出席者／新潟県　大野技術管理課長他３名
北陸支部　小野塚新潟地域委員長他５名

平成25年７月23日

平成25年度　マネジメントセミナー（本部主催）

場　所／新潟市内

講　師／本部担当委員会委員

内　容／「建設コンサルタントとマネジメント」
「PFI 事業の今後の展望と
建設コンサルタントの役割」
「CM 業務導入の課題」
「環境配慮の動向と建設コンサルタントの役割」
「マネジメントシステムの実効性の向上」
「品質の確保・向上に向けて」

参加者／国２名、県８名、政令市３名、会員51名、
非会員２名、計66名

平成25年７月23日

平成25年度　防災エキスパート講習会（後援）

場　所／新潟市内

講　演／「我々が創り上げてきた地域防災力モデル」
「地域を巻き込んだ防災教育」

参加者／81名

平成25年７月24日

金沢大学説明会

場　所／金沢大学（85名）

内　容／建設コンサルタントの概要について　他

平成25年７月26日

道路・トンネル技術講習会

場　所／富山市内

講　演／「北陸の地盤について
～道路、トンネル設計における留意点～」
「交通安全対策
～道路による交通安全対策について～」
参加者／36名

平成25年８月２日

第８回社会資本整備セミナー（共催）
場　所／新潟市内
講　演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」
「活断層と地震防災を考える
～新潟・長野・富山・石川の活断層～」
参加者／186名

平成25年８月６日

第８回社会資本整備セミナー（共催）
場　所／金沢市内
講　演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」
「活断層と地震防災を考える
～新潟・長野・富山・石川の活断層～」
参加者／82名

平成25年８月６日

金沢河川国道事務所との意見交換会
場　所／金沢市内
出席者／金沢河川国道事務所　有野事務所長他６名
北陸支部　新家石川地域委員長他17名

平成25年８月７日

第８回社会資本整備セミナー（共催）
場　所／富山市内
講　演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」
「活断層と地震防災を考える
～新潟・長野・富山・石川の活断層～」
参加者／100名

平成25年８月８日

建設コンサルタンツ協会北陸支部　業務・研究発表会
場　所／新潟市内
内　容／基調講演
「総合学としての建設～工学の中の何でも屋さん～」
新潟大学　工学部建設学科　教授　大川　秀雄氏
業務・研究発表　８編
学生講演　２編
参加者／120名

平成25年８月９日

第８回社会資本整備セミナー（共催）
場　所／長野市内
講　演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」
「活断層と地震防災を考える
～新潟・長野・富山・石川の活断層～」
参加者／43名

平成25年８月９日

けんせつフェア北陸 in 金沢実行委員会
場　所／北陸地方整備局
出席者／佐々木広報委員長

平成25年８月18日

富山事務所社会貢献活動
ふるさと富山美化大作戦
場　所／富山市内
内　容／清掃活動
参加者／24名

平成25年８月22日

広報部会会議
場　所／興和ビル会議室
内　容／広報の重要性について
活動状況の確認について

平成25年８月26日

建設副産物対策連絡協議会新潟県下越分科会
場　所／新潟国道事務所
出席者／若尾建設環境委員

平成25年８月26日

講師派遣
派遣先／新潟県
派遣数／１名
内　容／橋梁Ⅲ（行政編）

平成25年８月29日

講師派遣
派遣先／新潟県
派遣数／１名
内　容／橋梁の維持管理Ⅰ

平成25年９月２日

防災演習

場　所／北陸支部会議室

内　容／情報伝達訓練
（FAX 及びメールによる送受信）

参加者／高田運営委員長　他５名

平成25年９月４日

平成25年度第３回役員会

場　所／金沢市内

議　題／協会本部定例運営会議等報告 他

平成25年９月５日・６日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／７名

内　容／「道路設計」
道路全般
平面線形基礎演習(1)、(2)
縦断線形基礎演習
河川橋計画基礎演習(1)、(2)
横断設計基礎演習
平面交差点基礎演習
重力式擁壁の安定計算

平成25年９月11日

セメント系固化材セミナー（後援）

場　所／金沢市内

講　演／総論「セメント系固化材の地盤改良への多様な展開」
地盤改良の原理と改良土の特性
深層改良
建築基礎地盤の改良
固化処理と環境
トピックス　「地盤改良の耐震効果」

参加者／120名

平成25年９月11日

北陸地方整備局と連携した防災演習

場　所／北陸支部会議室

内　容／情報伝達訓練及びリエゾン派遣の実施

参加者／青木総括部会長　他３名

平成25年９月11日

第９回設計業務品質確保研究会

場　所／北陸地方整備局

出席者／横山技術部会長、渡辺橋梁委員長、
涌井河川及び砂防委員長

平成25年９月19日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／５名

内　容／「橋梁Ｉ（下部工の設計・施工編）」
下部工設計のための地質調査の基本
下部工の設計の基本
下部工の施工とその留意事項
下部工設計時における仮設構造物の計画
橋梁設計のエラー事例

平成25年９月20日

技術部会委員長会議

場　所／北陸支部会議室

議　題／道路橋技術相談窓口対応について

出席者／横山技術部会長、渡辺橋梁委員長、渡辺道路委員長
涌井河川及び砂防委員長、桐沢トンネル委員長

平成25年９月20日

技術部会橋梁委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／道路橋技術相談窓口対応について

平成25年９月20日

橋梁技術講演会

場　所／新潟市内

講　演／「鋼橋の性能照査技術と将来の課題」
「日本鋼構造協会『鋼構造物の疲労設計指針・同解説（2012年版)』の紹介」
「NEXCO 東日本における構造物の損傷と対策事例」

参加者／87名

平成25年９月26日

講師派遣

派遣先／富山県

派遣数／１名

内　容／橋梁点検について

平成25年９月27日

新潟地域委員会

場　所／北陸支部会議室

内　容／意見交換会の議題について

平成25年９月30日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／１名

内　容／「橋梁Ⅱ（上部工の設計・施工編）」
橋梁設計のエラー事例

平成25年９月30日

砂防学会通常総会並びに研究発表会「新潟大会」
第１回実行委員会

場　所／新潟県

出席者／寺本支部長、涌井河川及び砂防委員長

平成25年９月30日

若手技術者育成支援検討会（第１回）

場　所／北陸地方整備局

出席者／北陸支部若手技術者育成支援検討 WG
竹内リーダー、片岸サブリーダー

平成25年10月２日

建設技術報告会

場　所／新潟市内

内　容／民・官で研究開発された新技術・新工法を
７テーマに基づき32技術の報告
29企業等からのパネル等展示

講　演／「雪につよいまちづくり～発想の転換～」
㈲ MAX・ZEN Performance consultant
代表取締役　丸山　結香　氏

平成25年10月２日・３日

平成25年度　都市計画見学研修会

場　所／会津若松市及び大内宿

内　容／大内宿の歴史的資源を活かしたまちづくり及び会津若松市の都市計画、景観施策、中心市街地活性化等見学

参加者／12名

平成25年10月４日

平成25年度　河川見学会

場　所／湯沢砂防事務所管内及び新潟県南魚沼地域振興局管内

内　容／鎌倉沢砂防堰堤群、姥沢川第２号砂防堰堤、蟹沢砂防堰堤、登川全断面魚道の見学

参加者／24名

平成25年10月４日

講師派遣

派遣先／富山県

派遣数／１名

内　容／橋梁点検について

平成25年10月５日

社会貢献活動「親子見学会」
（後援：北陸地方整備局、新潟県、新潟市、新潟日報社）

場　所／新潟市内

内　容／小学校の親子を対象とした橋梁・河川等の勉強会及び河川敷花壇への植栽

参加者／28名

平成25年10月６日

第24回土木フェスティバル（後援）

場　所／国営越後丘陵公園

内　容／防災用機械の展示・体験・実演
防災に関するパネル・模型の展示

平成25年10月７日

広報部会誌委員会

場　所／支部事務局会議室

議　事／会誌119号の確認
会誌120号の計画

平成25年10月９日

CommonMP 利用講習会

場　所／北陸地方整備局

参加者／１名

平成25年10月10日

支部部会長会議

場　所／支部事務局会議室

議　事／平成25年度事業執行状況について

平成25年10月11日

第７回全国三方良しの公共事業改革推進カンファレンス
in 新潟（後援）

場　所／新潟市内

参加者／500名

平成25年10月18日

RCCM 登録更新講習会

場　所／新潟市内

参加者／128名

平成25年10月18日～19日

けんせつフェア北陸 in 金沢

場　所／金沢市内

内　容／150機関　269技術出展

平成25年10月21日

新潟県土木部との意見交換会

場　所／新潟市内

出席者／新潟県土木部　田宮土木部長　他

北陸支部　小野塚新潟地域委員長　他

平成25年10月22日

独占禁止法の遵守に関する講習会

場　所／金沢市内

内　容／「入札談合と独占禁止法について」

（公財）公正取引協会

客員研究員　葛西　文二　氏

参加者／38名

平成25年10月23日

CommonMP 利用講習会

場　所／北陸地方整備局

参加者／３名

平成25年10月24日

エラー防止セミナー

場　所／富山市内

内　容／・セミナーの目的とエラー防止の対応

・土質・地質調査の計画、実施及び結果の評価

・エラーの技術的分析と改善策⑴河川構造物

・エラーの技術的分析と改善策⑵道路／ﾄﾝﾈﾙ

・エラーの技術的分析と改善策⑶砂防／急傾斜

・エラーの技術的分析と改善策⑷鉄道

・エラーの技術的分析と改善策⑸橋梁

参加者／76名

平成25年10月25日

平成25年度　道路・トンネル現場見学会

場　所／氷見市内

内　容／一般国道470号能越自動車道　七尾氷見道路

参加者／24名

平成25年10月25日

建設工事と地盤汚染に関する講習会

場　所／金沢市内

内　容／土壌汚染対策法とは？

建設工事で遭遇する「地盤汚染」への対応

㈱エオネックス執行役員　須崎　秀人　氏

土壌汚染対策法の概要と措置等について

金沢市環境局環境指導課　主査　宮村 浩一 氏

参加者／10名

平成25年10月25日

平成25年度 ICT 支部連絡会議

場　所／建設コンサルタンツ協会本部

出席者／野入情報委員

平成25年10月25日

Made in 新潟　新技術（土木･建築）展示･発表会（共催）

場　所／新潟市内

内　容／展示会　40社85技術（土木80、建築５）

発表会　12社（土木９、建築３）

平成25年10月28日

第４回役員会

場　所／新潟市内

議　事／協会本部運営委員会報告　他

平成25年10月28日

北陸地方整備局との意見交換会

場　所／新潟市内

出席者／北陸地方整備局　野田局長　他

北陸支部　寺本支部長　他

平成25年10月29日

契約のあり方講習会

場　所／新潟市内

内　容／土木設計契約上の法的問題

弁護士　大森　文彦　氏

参加者／62名

平成25年10月30日

平成25年情報セキュリティ講習会

場　所／金沢市内

内　容／・情報セキュリティ対策の必要性と協会ガイ

ドブックの概要
・情報セキュリティ対策の実施例
・変化する情報セキュリティの脅威とその対応

参加者／18名

平成25年10月30日

北陸橋梁保全会議実行委員会

場　所／北陸地方整備局

出席者／松浦事務局長

平成25年10月30日

CommonMP 利用講習会

場　所／北陸地方整備局

参加者／４名

平成25年10月31日

北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県下越分科会作業部会（現地調査）

場　所／新潟県阿賀野市小里地先

出席者／若尾建設環境委員

平成25年11月５日

北陸橋梁保全会議運営部会

場　所／北陸地方整備局

出席者／松浦事務局長

平成25年11月７日

北陸支部若手技術者育成支援検討会

場　所／北陸支部事務局会議室

内　容／北陸支部若手技術者育成検討会について

参加者／高田 WG 長、
竹内リーダー、片岸サブリーダー他８名

平成25年11月７日～８日

平成25年度北陸河川技術研修（後援）

場　所／新潟市内

参加者／約250名

平成25年11月８日

新潟市との意見交換会

場　所／新潟市内

出席者／新潟市　井村技監　他
北陸支部　小野塚新潟地域委員長　他

平成25年11月８日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／１名

内　容／コンクリート構造物の損傷事例とその対応

平成25年11月８日

平成25年度　橋梁現場見学会

場　所／七尾市内

内　容／一般国道470号能越自動車道　城山高架橋

参加者／24名

平成25年11月12日

防災講演会打合せ

場　所／支部事務局会議室

議　事／防災講演会の開催について

平成25年11月11日～12日

第１回北陸橋梁保全会議

場　所／新潟市内

参加者／910名

平成25年11月13日

まちづくりセミナー

場　所／新潟市内

内　容／まちなか再生と古町花街
新潟大学工学部建設学科
教授　岡崎　篤行　氏
新潟発！ 行政参加のまちづくり
新潟市都市政策部長　池田　博俊　氏
“人に優しく美しいまち商店街”
しつらえとして“アーケード・歩車道”
リニューアル経緯とこれから
新潟市上古町商店街振興組合　専務理事
酒井　幸男　氏

参加者／35名

平成25年11月14日～15日

第12回多自然川づくり北陸ブロック担当者会議

場　所／金沢市内

参加者／４名

平成25年11月15日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／１名

内　容／コンクリート構造物の損傷事例とその対応

平成25年11月18日

北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県中越分科会

場　所／長岡国道事務所

出席者／高野総括部会委員

平成25年11月18日～19日

北陸雪氷シンポジウム

場　所／福井市内

参加者／580名

平成25年11月22日

災害対策部会事前打合せ会議

場　所／支部事務局会議室

内　容／災害時行動マニュアル改訂について

平成25年11月26日

北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県上越分科会

場　所／高田河川国道事務所

出席者／藤本建設環境委員

平成25年11月29日

技術者のための ICT 普及セミナー2013

場　所／富山市内

内　容／・ICT 関連最新情報
・CIM に関する動向
・OCF 会員企業の
（我社 CAD・CG・CIM ソフト）

参加者／20名

平成25年12月５日

第５回役員会

場　所／新潟市内

議　事／協会本部運営委員会報告　他

平成25年12月５日

技術部会委員長会議

場　所／新潟市内

議　事／今年度の活動状況等について

平成25年12月５日

広報部会会議

場　所／新潟市内

議　事／今年度の活動状況等について

平成25年12月５日

災害対策部会事前打合せ会議

場　所／新潟市内

内　容／災害時行動マニュアル改訂について

平成25年12月５日

独占禁止法の遵守に関する特別部会

場　所／新潟市内

議　事／講習会の開催について

平成25年12月５日

協会本部講演会

場　所／新潟市内

内　容／建設コンサルタントを巡る課題と今後の方向
（一社）建設コンサルタンツ協会
顧問　前川　秀和　氏

参加者／87名

平成25年12月５日

第２回北陸若手技術者育成支援検討会

場　所／北陸地方整備局

参加者／竹内リーダー、片岸サブリーダー

平成25年12月６日

技術部会品質向上委員会会議

場　所／支部事務局会議室

議　事／平成26年度業務・研究発表会の開催について

平成25年12月６日

防災講演会打合せ

場　所／支部事務局会議室

議　事／防災講演会の開催について

平成25年12月９日

建設技術報告会実行委員会

場　所／北陸地方整備局

出席者／佐々木広報委員長

平成25年12月９日

北陸地方整備局との災害協定に関する打合せ会議

場　所／北陸地方整備局

出席者／松浦事務局長

平成25年12月９日

けんせつフェア北陸 in 金沢合同会議

場　所／北陸地方整備局

出席者／佐々木広報委員長

平成25年12月10日

出前講演（新潟大学農学部）

場　所／新潟大学

内　容／建設コンサルタント業界と
自然環境に関する仕事の概要　他
参加者／３年生20名

平成25年12月13日

阿賀野川河川現地勉強会
場　所／阿賀野川河川事務所管内
内　容／堤防耐震対策工事現場等を見学し意見交換を行う
参加者／14名

平成25年12月15日

防災講演会
（後援：北陸地方整備局、新潟県、新潟市、新潟日報社）
場　所／新潟市内
内　容／釜石の奇跡に学ぶ
想定外の災害にどう備えるか
群馬大学理工学研究院教授　片田　敏孝　氏
参加者／540名

平成26年１月９日

災害対策部会事前打合せ会議
場　所／支部事務局会議室
内　容／災害時行動マニュアル改訂について

平成26年１月10日

北陸技術事務所との打合せ会議
場　所／支部事務局会議室
出席者／長岡技術科学大学　教授　大塚　　悟　氏
北陸技術事務所総括技術情報管理官
奥住　雅彦　氏
北陸支部　横山技術部会長、坂上対外活動部会幹事
松浦事務局長

平成26年１月16日

Made in 新潟 新技術（土木・建築）説明会　上越（共催）
場　所／上越市内
参加者／86名

平成26年１月17日

道路橋技術相談窓口等会議
場　所／建設コンサルタンツ協会本部
内　容／道路橋技術相談窓口の現状等について
出席者／渡辺橋梁委員長、松浦事務局長

平成26年１月20日

平成26年度　新潟県・新潟市総合防災訓練
第１回全体会議
場　所／新潟県庁
出席者／青木総括部会長

平成26年１月23日

長岡工業高等専門学校説明会
場　所／長岡工業高等専門学校（70名）
内　容／PR 冊子による建設コンサルタントの概要について

平成26年１月23日

災害対策部会事前打合せ会議
場　所／支部事務局会議室
内　容／災害時行動マニュアル改訂について

平成26年１月24日

Made in 新潟 新技術（土木・建築）説明会　中越（共催）
場　所／長岡市内
参加者／142名

平成26年１月29日

広報部会会議
場　所／支部事務局会議室
議　事／北陸支部 HP について

平成26年１月29日

広報部会会誌委員会
場　所／支部事務局会議室
議　事／会誌120号の確認
会誌121号の計画

平成26年１月30日

講師派遣
派遣先／富山県
派遣数／１名
内　容／エラー防止と品質向上について

平成26年２月３日

Made in 新潟 新技術（土木・建築）説明会　下越（共催）
場　所／新潟市内
参加者／235名

平成26年２月４日

北陸橋梁保全会議第２回運営・報文合同部会
場　所／北陸地方整備局

出席者／青木総括部会長、渡辺橋梁委員長

平成26年２月６日

支部部会長会議

場　所／支部事務局会議室

議　事／平成26年度事業計画等について

平成26年２月６日

新潟県土木部技術管理課との打合せ会議

場　所／支部事務局会議室

内　容／設計業務の品質確保等について

平成26年２月12日

北陸の建設技術第２回編集委員会

場　所／新潟国道事務所

内　容／平成26年度の発刊計画について

出席者／齋藤会誌委員

平成26年２月13日

富山県土木部との意見交換会

場　所／富山市内

出席者／富山県　林土木部次長　他
北陸支部　吉田副支部長　他

平成26年２月14日

第９回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／新潟市内

講　演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」
「雪利用の取り組みと将来展望
～雪氷冷熱エネルギーの可能性～」

参加者／186名

平成26年２月17日

北陸地方建設事業推進協議会　３部会

場　所／北陸地方整備局

出席者／横山技術部会長、渡邊道路委員長、佐々木広報委員長

平成26年２月18日

北陸地方整備局企画部との打合せ会議

場　所／支部事務局会議室

内　容／防災・減災新潟プロジェクト2014の協力依頼について

出席者／北陸地方整備局高橋事業調整官
北陸支部　齋藤広報部会長、松浦事務局長

平成26年２月18日

社会基盤施設の維持管理技術者の育成に関する協議会

場　所／新潟市内

出席者／横山技術部会長、高橋災害対策部会技術総括指揮者

平成26年２月18日

第９回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／長野市内

講　演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」
「雪利用の取り組みと将来展望
～雪氷冷熱エネルギーの可能性～」

参加者／48名

平成26年２月20日

第９回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／富山市内

講　演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」
「雪利用の取り組みと将来展望
～雪氷冷熱エネルギーの可能性～」

参加者／78名

平成26年２月21日

第９回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／金沢市内

講　演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」
「雪利用の取り組みと将来展望
～雪氷冷熱エネルギーの可能性～」

参加者／122名

平成26年２月25日

第３回北陸若手技術者育成支援検討会

場　所／北陸地方整備局

参加者／竹内リーダー、片岸サブリーダー

平成26年３月５日

第６回役員会

場　所／新潟市内

議　事／協会本部運営委員会報告　他

平成26年３月５日

協会本部と支部との意見交換会

場　所／新潟市内

議　事／建設コンサルタントの要望と提案等について

出席者／建設コンサルタンツ協会本部　大島会長　他

北陸支部　寺本支部長　他

平成26年３月６日

独占禁止法等遵守に関する講習会

場　所／新潟市内

内　容／委託・受託者及び再委託の法的問題点について
弁護士　大森　文彦　氏
各社のコンプライアンスプログラム作成状況等について
（一社）建設コンサルタンツ協会
独禁法に関する委員会
実行委員会　委員　西潟　常夫　氏

参加者／77名

平成26年３月10日

平成26年度　新潟県・新潟市総合防災訓練
第２回全体会議

場　所／新潟県教育センター

出席者／青木総括部会長

平成26年３月11日

新潟県土木部河川管理課との打合せ会議

場　所／支部事務局会議室

内　容／新潟県内降雨強度式の改訂に係る事前説明について

平成26年３月13日

北陸防災連絡会議

場　所／新潟市内

出席者／寺本支部長　高橋災害対策部会技術総括指揮者

平成26年３月19日

第９回設計業務品質確保に関する研究会

場　所／北陸地方整備局

出席者／横山技術部会長、涌井河川及び砂防委員長、真嶋品質向上委員長

平成26年３月24日

インフラ再生技術者育成新潟地域協議会

場　所／新潟市内

出席者／寺本支部長

一般社団法人　建設コンサルタンツ協会北陸支部
会　員　名　簿

会社名	事業所名	〒　住所	電話番号 FAX 番号
朝日航洋㈱	北陸空情支社	950-0088　新潟市中央区万代 2-3-6 （新潟東京海上日動ビル 2 F）	025(249)1150 025(249)1155
旭調査設計㈱	本社	950-0908　新潟市中央区幸西 1-1-11	025(245)8345 025(245)8349
アジア航測㈱	新潟営業所	950-0087　新潟市中央区東大通 2-3-28 （パーク新潟東大通ビル）	025(243)3246 025(247)7969
㈱アルゴス	本社	944-0009　妙高市東陽町 1-1	0255(72)3448 0255(72)9426
アルスコンサルタンツ㈱	本社	921-8116　金沢市泉野出町 2-1-1	076(248)4004 076(248)4174
いであ㈱	北陸支店	950-0087　新潟市中央区東大通 2-5-1 カープ新潟ビル	025(241)0283 025(243)5650
㈱エイト日本技術開発	新潟営業所	943-0804　上越市新光町 1-4-52	025(522)7570 025(522)7786
エヌシーイー㈱	本社	950-0964　新潟市中央区網川原 1-4-11	025(285)8540 025(285)3531
大原技術㈱	本社	940-0856　長岡市美沢 3-275	0258(35)4511 0258(36)3254
応用地質㈱	新潟支店	950-0864　新潟市東区紫竹 7-27-35	025(274)5656 025(271)6765
㈱オリエンタルコンサルタンツ	北陸支店	950-0087　新潟市中央区東大通 2-3-26 （プレイス新潟 4 F）	025(244)7881 025(244)7387
開発技建㈱	本社	950-0914　新潟市中央区紫竹山 7-13-16	025(245)7131 025(245)7132
㈱開発技術コンサルタント	本社	951-8133　新潟市中央区川岸町 3-33-3	025(233)0204 025(233)6465
川崎地質㈱	北陸支店	950-0914　新潟市中央区紫竹山 5-7-5	025(241)6294 025(241)6226
基礎地盤コンサルタンツ㈱	北陸支店	950-0925　新潟市中央区弁天橋通 1-2-34	025(257)1888 025(257)1880
北建コンサル㈱	本社	933-0941　高岡市内免 3-3-6	0766(23)3666 0766(23)3987
㈱キタック	本社	950-0965　新潟市中央区新光町 10-2	025(281)1111 025(281)0002
㈱協和	本社	933-0838　高岡市北島 1406	0766(22)2100 0766(22)7602
㈱クリエイトセンター	本社	951-8133　新潟市中央区川岸町 2-8-1	025(232)7121 025(232)7130
㈱クレアリア	新潟営業所	950-0916　新潟市中央区米山 4-19-13 （ハイムオカザキ）	025(248)2205 025(248)2206
㈱計画情報研究所	本社	920-0025　金沢市駅西本町 2-10-6	076(223)5445 076(223)4144
㈱建成コンサルタント	本社	933-0014　高岡市野村 284-1	0766(25)6097 0766(25)5697

会社名	事業所名	〒 住所	電話番号 FAX 番号
建設技研コンサルタンツ㈱	本社	933-0007 高岡市角 602-1	0766(21)6126 0766(21)6192
㈱建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル７Ｆ)	025(285)6437 025(280)9750
㈱建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代 4-4-27 (新潟テレコムビル)	025(245)3883 025(241)9082
㈱建設技術センター	新潟営業所	950-0028 新潟市東区小金台 9-9　202 号	025(250)8002 025(250)8004
㈱構造技研新潟	本社	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル８Ｆ)	025(282)3337 025(282)3323
国際航業㈱	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通 2-3-26 (プレイス新潟)	025(247)0318 025(241)4146
㈱国土開発センター	本社	921-8033 金沢市寺町 3-9-41	076(247)5080 076(247)5090
国土防災技術㈱	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井 1035-1	025(260)2245 025(260)7522
五大開発㈱	本社	921-8051 金沢市黒田 1-35	076(240)6588 076(240)6575
サンコーコンサルタント㈱	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上 4-4-15	025(260)3141 025(268)4950
㈱上智	本社	939-1351 砺波市千代 176-1	0763(33)2085 0763(33)2558
㈱新日本コンサルタント	本社	930-0142 富山市吉作 910-1	076(436)2111 076(436)3050
相互技術㈱	本社	950-0994 新潟市中央区上所 2-11-14	025(283)0150 025(283)0152
㈱大東設計コンサルタント	新潟支店	950-0086 新潟市中央区花園 2-1-16 (三和ビル)	025(246)1320 025(247)3740
大日本コンサルタント㈱	北陸支社	930-0175 富山市願海寺 633	076(436)7855 076(436)6030
㈱ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山 4-1-24	025(234)2110 025(234)2111
舘下コンサルタンツ㈱	本社	939-3553 富山市水橋的場 234	076(478)0090 076(478)1190
中央開発㈱	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南 3-1-21 (北陽ビル)	025(283)0211 025(283)0212
㈱中部コンサルタント	本社	933-0866 高岡市清水町 3-5-9	0766(21)4536 0766(22)4370
㈱長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル６Ｆ)	025(288)0271 025(288)0273
㈱千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口 1-19-31	025(244)8445 025(249)4776
㈱東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通 1-2-23 (北陸ビル)	025(248)3870 025(248)3877
東京コンサルタンツ㈱	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口 1-1-12 (クラスターナインビル８Ｆ)	025(246)1827 025(246)7463
㈱東洋設計	本社	920-0016 金沢市諸江町中丁 214	076(263)6555 076(233)1224
ナチュラルコンサルタント㈱	本社	921-8066 金沢市矢木 2-147	076(246)1171 076(246)4489

会社名	事業所名	〒 住所	電話番号 FAX 番号
㈱ナルサワコンサルタント	本社	950-0964 新潟市中央区網川原 1-21-11	025(282)2070 025(284)7993
㈱日本海コンサルタント	本社	921-8042 金沢市泉本町 2-126	076(243)8258 076(243)0887
日本工営㈱	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島 1-11-28	025(280)1701 025(283)0898
㈱日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-5-8	025(243)0431 025(241)1806
㈱ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口 2-10-1 （ＷＩＮ21 ４Ｆ）	025(243)4471 025(243)4472
パシフィックコンサルタンツ㈱	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神 1-1 （プラーカ３ ６Ｆ）	025(247)1341 025(246)1005
㈱パスコ	新潟支店	950-0916 新潟市中央区米山 3-1-63	025(243)0051 025(241)8654
㈱プラネット・コンサルタント	本社	920-0353 金沢市赤土町ト 95-1	076(268)1206 076(268)1207
北電技術コンサルタント㈱	本社	930-0858 富山市牛島町 13-15	076(432)9936 076(432)4280
北陸コンサルタント㈱	本社	939-8213 富山市黒瀬 192	076(493)7717 076(493)7720
三井共同建設コンサルタント㈱	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-5-8 （東大通野村ビル）	025(244)2503 025(244)2573
明治コンサルタント㈱	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山 1-1-22	025(265)1122 025(265)1126
八千代エンジニヤリング㈱	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代 1-1-1 （朝日生命新潟ビル）	025(243)5454 025(243)5883
（一社）北陸地域づくり協会	本部	950-0197 新潟市江南区亀田工業団地 2-3-4	025(381)1020 025(383)1205
（一財）新潟県建設技術センター	本部	950-1101 新潟市西区山田 2522-18	025(267)4804 025(267)4854

各部会・委員会委員名簿

独占禁止法の遵守に関する特別部会			
部会長		寺本邦一	開発技建㈱
		新家久司	㈱国土開発センター
		吉田攻	大日本コンサルタント㈱
		小野塚眞一	㈱キタック
		齋藤真晴	開発技建㈱
		金子慶一	㈱国土開発センター
		大浦淳	大日本コンサルタント㈱
		西潟常夫	㈱キタック

対外活動部会			
部会長		寺本邦一	開発技建㈱
		新家久司	㈱国土開発センター
		吉田攻	大日本コンサルタント㈱
		小野塚眞一	㈱キタック
		大平則夫	エヌシーイー㈱
		矢田弘	㈱東京建設コンサルタント
		田中義明	大日本コンサルタント㈱
		長森孝司	㈱日本海コンサルタント
幹事		坂上悟	開発技建㈱
新潟地域委員	委員長	小野塚眞一	㈱キタック
	委員	阿部良満	エヌシーイー㈱
	委員	山岸守	開発技建㈱
	委員	上田茂樹	㈱クリエイトセンター
	委員	中俣孝	㈱構造技研新潟
	委員	舩谷喜代文	旭調査設計㈱
富山地域委員	委員長	吉田攻	大日本コンサルタント㈱
	委員	田中義明	大日本コンサルタント㈱
	委員	竹腰直治	北建コンサル㈱
	委員	吉田勉	㈱上智
	委員	大浦淳	大日本コンサルタント㈱
	委員	栄知之	北陸コンサルタント㈱
石川地域委員	委員長	新家久司	㈱国土開発センター
	委員	髙嶋智晴	㈱国土開発センター
	委員	長森孝司	㈱日本海コンサルタント

総括部会			
部会長		青木和之	エヌシーイー㈱
		佐藤浩	㈱開発技術コンサルタント
		大浦淳	大日本コンサルタント㈱
		浦正光	㈱日本海コンサルタント
		西潟常夫	㈱キタック

		間　瀬　義　昭	開発技建㈱
		高　野　一　博	大原技術㈱

技　術　部　会			
部　会　長		横　山　徹　成	開発技建㈱
道路委員会	委員長	渡　邊　雅　樹	開発技建㈱
	委　員	木　村　　浩	エヌシーイー㈱
	委　員	首　藤　直　樹	㈱クリエイトセンター
	委　員	平　岸　　純	㈱国土開発センター
	委　員	古　池　　豊	大日本コンサルタント㈱
	委　員	藤　本　勇　一	㈱東洋設計
	委　員	神　田　和　久	開発技建㈱
橋梁委員会	委員長	渡　辺　正　三	大日本コンサルタント㈱
	委　員	近　藤　　治	開発技建㈱
	委　員	渋　木　　薫	エヌシーイー㈱
	委　員	大　竹　　滋	㈱キタック
	委　員	南　雲　　浩	㈱構造技研新潟
	委　員	笹　谷　輝　彦	㈱国土開発センター
	委　員	小　原　隆　一	㈱東洋設計
	委　員	寺　田　直　樹	㈱開発技術コンサルタント
河川及び砂防委員会	委員長	涌　井　正　樹	㈱キタック
	委　員	永　矢　貴　之	㈱建設技術研究所
	委　員	亀　田　　満	㈱国土開発センター
	委　員	佐　藤　裕　司	五大開発㈱
	委　員	岡　田　和　美	大日本コンサルタント㈱
	委　員	須　田　　玲	エヌシーイー㈱
	委　員	木　村　幸　雄	開発技建㈱
	委　員	小　柳　　徹	㈱キタック
	委　員	金　子　幸　生	相互技術㈱
トンネル委員会	委員長	桐　沢　芳　広	㈱オリエンタルコンサルタンツ
	委　員	今　度　充　之	東京コンサルタンツ㈱
	委　員	須　貝　　浩	エヌシーイー㈱
	委　員	麻　田　正　弘	アルスコンサルタンツ㈱
	委　員	平　野　吉　彦	㈱キタック
	委　員	雪　田　真　吾	サンコーコンサルタント㈱
	委　員	辻　本　勝　彦	㈱国土開発センター
都市計画委員会	委員長	小　見　直　樹	エヌシーイー㈱
	委　員	佐　藤　吉　一	開発技建㈱
	委　員	荘　司　洋　文	㈱キタック
	委　員	新田川　貴　之	㈱国土開発センター
	委　員	酒　井　信　次	大日本コンサルタント㈱
	委　員	埒　　正　浩	㈱日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	佐　藤　　朗	開発技建㈱
	委　員	稲　葉　弘　之	アルスコンサルタンツ㈱
	委　員	若　尾　明　弘	エヌシーイー㈱
	委　員	高　田　弘　幸	大日本コンサルタント㈱

	委　員	西　　暢　人	㈱日本海コンサルタント
	委　員	藤　本　隆　則	㈱キタック
	委　員	平　野　博　範	㈱国土開発センター
品質向上委員会	委員長	真　嶋　利　寿	エヌシーイー㈱
	委　員	清　原　宏　二	開発技建㈱
	委　員	森　　将　恒	㈱キタック
	委　員	大　越　敏　行	大日本コンサルタント㈱
	委　員	若　林　　修	東京コンサルタンツ㈱
	委　員	野　村　尚　樹	㈱日本海コンサルタント
	委　員	山　森　茂　明	㈱クリエイトセンター
	委　員	高　橋　辰　夫	㈱開発技術コンサルタント
情報委員会	委員長	樋　浦　　慎	開発技建㈱
	委　員	内　山　　徹	エヌシーイー㈱
	委　員	島　　健	㈱キタック
	委　員	大　関　一　成	㈱クリエイトセンター
	委　員	湯　川　　幹	㈱国土開発センター
	委　員	野　入　英　明	大日本コンサルタント㈱

広報部会			
部会長		齋　藤　真　晴	開発技建㈱
広報委員会	委員長	佐々木　大　介	㈱ナルサワコンサルタント
	委　員	浜　辺　良　彦	相互技術㈱
	委　員	澤　田　伸　也	大日本コンサルタント㈱
	委　員	瀧　上　　彰	アルスコンサルタンツ㈱
	委　員	芳　野　夏　輔	㈱建設技術研究所
	委　員	新　川　行　男	㈱国土開発センター
	委　員	吉　橋　　章	パシフィックコンサルタンツ㈱
	委　員	大　蔵　欣　司	㈱建成コンサルタント
	委　員	川　本　勝　之	開発技建㈱
	委　員	今　野　　健	エヌシーイー㈱
	委　員	佐　藤　洋　子	㈱構造技研新潟
	委　員	中　島　亮　子	開発技建㈱
	委　員	佐　藤　　恵	相互技術㈱
会誌編集委員会	委員長	須　藤　勝　彦	㈱国土開発センター
	委　員	猪　俣　孝　之	大日本コンサルタント㈱
	委　員	齋　藤　浩　幸	㈱キタック
	委　員	熊　倉　孝　次	㈱クリエイトセンター

災害対策部会			
部会長		寺　本　邦　一	開発技建㈱
災害対策新潟現地本部	技術総括指揮者	髙　橋　邦　夫	開発技建㈱
	副責任者	木　村　幸　雄	開発技建㈱
災害対策富山現地本部	技術総括指揮者	渡　辺　正　三	大日本コンサルタント㈱
	副責任者	林　　達　夫	大日本コンサルタント㈱
災害対策石川現地本部	技術総括指揮者	笹　谷　輝　彦	㈱国土開発センター
	副責任者	西　川　幸　成	㈱国土開発センター

編集後記

自分の写真が「雪の音」の表紙となったのは、富山から新潟に戻った平成21年11月号 Vol.105から始まった。編集委員会で「取りあえずこれでどう？」と出してしまったのが始まりだったと思う。福島へドライブに行った帰りの１枚だ。道端で真っ赤に染まった1本の紅葉の向こうにうっすら雪化粧した山と重なっていて一旦は通り過ぎたがあまりにも印象的で引き返して撮った写真だ。それから当たり前のように表紙担当となり今回で17刊目になる。しかも厄介なことに創刊100号から両面写真になっていた。

初めは「こんなもんでいいか」と撮っていたが、その内１シーンを撮るのに場所を変え角度を変えこだわり（？）が出てきたようだ。そしていつの間にか出かける度に表紙になる写真はないものかと無意識に探している自分がいる気がしている。

それにしても目に映ったものを写真で表現するのは非常に難しい。ということで道具に頼ろうとミラーレスカメラを購入してしまった。だが、扱い方が慣れず苦労している。

あとどのくらい表紙を飾れるか分からないが、「雪の音」を手に取ったとき、「この程度⁉」と思わず、皆様の広い心で笑って受け止めて欲しい。

猪俣孝之

雪　の　音　Vol.121

発　　行　一般社団法人　建設コンサルタンツ協会
北陸支部

〒950－0965
新潟市中央区新光町６番地１
（興和ビル）
TEL（025）282－3370・FAX（025）282－3371

会誌編集委員会
委 員 長　須藤　勝彦
委　　員　齋藤　浩幸　猪俣　孝之
熊倉　孝次

印　　刷　㈱第一印刷所

発行：一般社団法人建設コンサルタンツ協会北陸支部
〒950－0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル
TEL (025) 282－3370　FAX (025) 282－3371